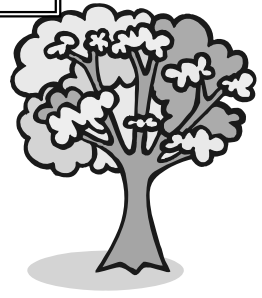


環境と地域社会

担当： みやうちたいすけ 宮内泰介（文学部・社会学）



■講義の目的

自 然とはなんだろう？ 自然保護、と言うけれど、自然を守るとはどういうことだろうか？ よく考えると実はそれほど簡単ではない。自然保護とは人間の手が加わらないことか？ 自然保護という思想は、世界共通のものになりうるのか？ それとも、文化や歴史によって違うのか？

こ の講義では、自然環境について、あるいは環境問題について、あくまで〈地域〉の視点、地域住民の視点を重視しながら考える、ということをやってみたいと思います。そこでは、地域の住民自身はその環境と歴史的にどうかかわってきたか、今後どうかかわるべきか、といった点が中心的なテーマになります。それは単に人が自然にどうかかわるか、ということにとどまらず、人と人の間にどういう関係を作っていくといいのかという問題である、といったことについても考えます。講義では、こうしたことを、日本・東南アジア・太平洋地域の具体的事例を取り上げながら考えたいと思います。

さ らに、この講義では、以上のような“環境と地域社会”というテーマに沿って、論文（レポート）を書いてもらいます。レポートを書くときには、何をどう調べればよいのか、どうまとめればいいのか、などについて、実践的に学びます。

キーワード：自然とは何か、環境保全とは何か、人間の手が加わった自然、自然と人間との相互作用、地域の視点、地域社会、ルール、共同利用、社会のしくみ、公共性、社会学的視点

■到達目標

環境について、あるいは環境問題について、地域社会の視点から、論理的な議論ができるようになることを目標とします。同時に、根拠のはっきりした説得力のあるレポート・論文が書けるようになることも、この講義の目標です。



■講義の構成（一応の予定です）

1. 自然とは何か？ 自然を守るとはどういうことか？
 - ・ 田んぼとは自然か？
2. 地域における人間と自然のかかわり
 - ・ 北海道の昆布漁より
 - ・ 海は誰のものか？～海をめぐる係争から
 - ・ 南太平洋ソロモン諸島の村における人と環境
- 3 環境と公共性
 - ・ 現代社会における環境の担い手は誰か？
 - ・ 公共性とは何か？

■履修者の絞り込みについて

この講義は「論文指導」の講義です。したがって受講者を30名程度に絞らなければなりません。初回の講義（本日で履修希望者は名前を書いてもらい、今週中に履修者を選定して掲示板に掲示します。申し訳ありませんが、履修者に漏れた人は履修できませんので、あらかじめご了承ください。

■講義の進め方

- (1) ビデオなどのオーディオビジュアルを多数利用しながら、
- (2) 講義と同時にグループ・ディスカッションや全体討論を行い、
- (3) さらに、レポート・論文作成指導にも重点を置きます。

つまり、“自分で考えること＝自己学習”に重点を置いているということです。積極的な授業参加なしに、この講義は意味をなしません。

■評価の基準と方法

(1) 講義の内容を十分に理解しているか、(2) 中間レポートなどの宿題が適切に書けているか、そして、(3) 期末レポートが講義の到達目標に応じて書けているか、によって成績を評価します。授業はディスカッション重視なので、授業への積極的な参加が求められます。また、期末レポートについては、講義内容を踏まえながら、オリジナリティと論理をもってしっかり書けているか、が評価基準になります。

上記の(1)～(3)3つを総合的に判断して評価します。ぬきんでた成績をおさめたものが「秀」、優れた成績をおさめたものが「優」、およそ目標を達した者が「良」、目標を下回ったものが「不可」です。

具体的には、出席および参加度(20%)、中間レポート(20%)、期末レポート(60%)という比重で評価します。

■基本参考文献

井上真・宮内泰介編, 2001, 『コモンズの社会学』(シリーズ環境社会学2) 新曜社

鳥越皓之, 2004, 『環境社会学——生活者の立場から考える』 東京大学出版会

船橋晴俊・宮内泰介編, 2003, 『環境社会学』 放送大学教育振興会

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』(岩波アクティブ新書) 岩波書店

その他の参考文献は講義の中で適宜指示します。

■宮内の連絡先およびホームページ

電話: 011-706-4150 (研究室)

メール: miyauchi@reg.let.hokudai.ac.jp

<http://reg.let.hokudai.ac.jp/miyauchi/>

■T.A. (ティーチング・アシスタント) の連絡先

ひらかわ ぜんき
平川全機 (大学院文学研究科博士課程)

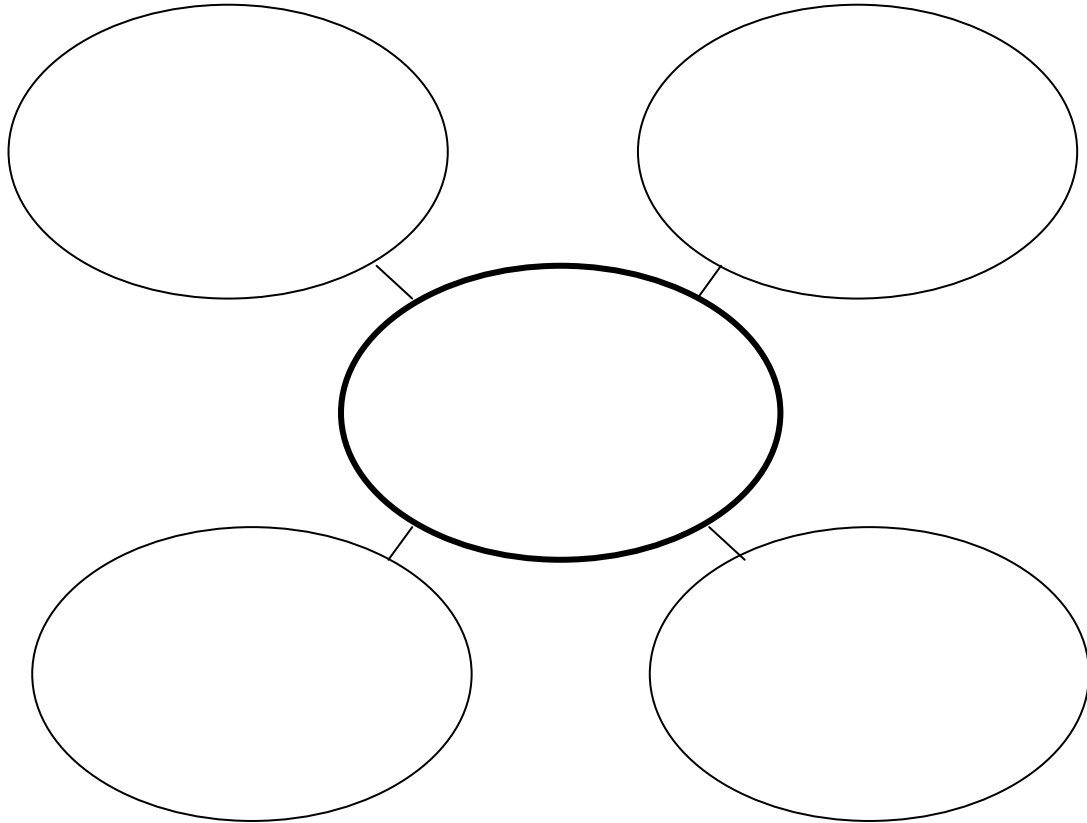
zhirakawa@reg.let.hokudai.ac.jp



環境と地域社会

学部・専攻	
学生番号	
氏名	

福井県・中池見のビデオを見て、下の図に当てはめる形で、人と自然環境の関係に関する図を自分なりに完成させなさい。図の形が意味するところなどは、自分で自由に解釈してください。



↓

各グループで、この図を各自説明したあと、次の点について議論してください。

- (1) 田んぼは「自然」なのか？
- (2) ビデオで出てきた田んぼを放棄すればいずれ森林に戻ると思われる、それはいいことか？

環境と地域社会

田んぼは自然か？



“田んぼをめぐる2つの命題”を考える

『SCIAS』（1998.10.2）の特集「田んぼ生態学」を分担して読み、

「田んぼは自然か？」

「田んぼを放棄して"自然に戻る"のはいいことか？」

「自然とは何か？ 自然を守るとはどういうことか？」

という問題について前回に引き続き議論してください。

↓

その議論から自分なりに見えてきたことを、“田んぼをめぐる2つの命題”として各自自由に考えて書いてください。

命題の例：「田んぼは……である」とか「……が現在必要である」とかいったもの（どんなものでも可。ユニークな命題を考えてください）

【語句説明】

谷戸（谷津）＝丘に挟まれた比較的細長い低地で、かつては雑木林、畑、水田、溜池、小川などに恵まれ、豊かな生態系を形作っていた。

後背湿地＝洪水によって運ばれた土砂は、河道の両脇に堆積して自然堤防をつくるとともに、河床にもたまって河床を高くする。そのため、河道から離れた場所は河床よりも低くなり、湿地になる。これが後背湿地である。

著作権処理の都合で、
この場所に挿入されていた図、
守山弘, 1997, 『水田を守るとはどういうことか』農山漁
村文化協会, p.15 図 1-2 自然堤防と後背湿地
を省略させていただきます。

環境と地域社会

田んぼは自然か？

“田んぼをめぐる2つの命題”を考える

学部	
学生番号	
氏名	

命題1

命題2

環境と地域社会

環境を守るって何だろう？

参考文献

ゴールデンウィークに読んでみよう

■田んぼ編

守山弘, 1997, 『水田を守るとはどういうことか——生物相の視点から』農山漁村文化協会

なぜ田んぼは、豊かな生態系を維持し、多様な生物を守って来ることができたのか？そして今、田んぼの豊かな生態系を取り戻すために、私たちに何ができるだろうか？田んぼとエコロジーを考える上での必読書。同じ著者も『自然を守るとはどういうことか』（1988, 農文協）、『むらの自然をいかす』（1997, 岩波書店）も非常におもしろい。

村上明夫著, 1990, 『環境保護の市民政治学——見沼田んぼからの緑のメッセージ』第一書林

首都圏に残る貴重な自然空間“見沼田んぼ地域”を守り活かそうとする市民運動の記録。写真による記録である小林義雄『見沼田んぼを歩く——首都圏最後の大自然空』（農山漁村文化協会, 1993）とともに読むことを薦めます。
見沼田んぼのホームページ <http://www.asahi-net.or.jp/~XX9K-STU/index.htm> もおもしろい！

千賀裕太郎, 1995, 『よみがえれ水辺・里山・田園』（岩波ブックレット）岩波書店

水辺の自然、農村の環境をどうやって再生させるか、日本とドイツの事例を紹介しながら考える。そして地域の住民、行政、学校、企業が手を結んで環境を改善していこうとする“グラウンドワーク運動”を提言する。

■環境一般編

鬼頭秀一, 1996, 『自然保護思想を問い直す——環境倫理とネットワーク』（ちくま新書）筑摩書房

「自然保護」と一口にいっても、いろいろな立場がある。いったい自然とは何なのか？自然保護とは何なのか？豊富な事例をもとに、環境倫理学の立場から、人間と自然との関係について深く考察する。

鳥越皓之, 2004, 『環境社会学——生活者の立場から考える』東京大学出版会

環境問題を、生活する人の立場から考えるとどうなるか。環境社会学の考え方をわかりやすく説明。

鷺谷いづみ『自然再生—持続可能な生態系のために』（中公新書）中央公論社

保全のための生態学（保全生態学）の最前線を走る鷺谷いづみさんが、自然再生のための考え方を、事例をとりまぜながらわかりやすく述べた本。同じ著者たちによる、鷺谷いづみ・飯島博編, 1999, 『よみがえれアサザ咲く水辺——霞ヶ浦からの挑戦』（文一総合出版）は、死に瀕した霞ヶ浦を救おうと市民が立ち上がったさまを描く。

井上真・宮内泰介編, 2001, 『コモンスの社会学』（シリーズ環境社会学2）新曜社

日本、インドネシア、ソロモン諸島各地の事例から、住民自身が共同で自然環境とかかわり、管理する様子を描くと同時に、その課題を考える。

環境と地域社会

田んぼは自然か？



「田んぼは自然か？」、「田んぼを放棄して“自然に戻る”のはいいことか？」
という問題をめぐって——

■大切な湿地環境としての田んぼ

- ・ 後背湿地にいた生物を温存してきた田んぼ（守山弘, 1997）
 - ・ 洪水＋土砂 → 自然堤防＋後背湿地
 - ・ 「水田やため池は、わが国の第三紀型の水生生物相を保持する重要な場所」（守山弘, 1997:48）
第三紀型＝2,400～400 万年 B.C.
- ・ 多様な環境系を提供する水田
 - ←人間の活動が加わっているため、時期によって環境系が変化する
 - ※「物理的攪乱」と「遷移」
 - 生物多様性に貢献（『SCIaS』, 1998.10.2, p.55）
- ・ 干潟や湿地と似た働きをもつ田んぼ
 - cf ラムサール条約の「湿地」の定義には「人工的な湿地」も含まれている。

■生物多様性（biological diversity = biodiversity）

生物多様性条約（1993 年発効）は、

生物多様性＝種内の多様性＋種間の多様性＋生態系の多様性

としている。

↓

「自然」の定義を「人間がかかわっているかどうかにかかわらず、生物多様性のために重要な生態系であり、したがって維持すべき生態系」とすれば、田んぼは自然である。

↓

田んぼとは、人間がかかわった自然であり、人間がかかわることによって生物多様性が守られてきた。

↓

自然環境を守るとは、人間のかかわり方を守る、あるいは、よりよいかかわり方を模索することである。

↓

自然環境を考えることは、人間と人間の関係（社会関係）を考えることである。

自然へのかかわりの 2 つの方向

パッシブ（受け身）なかわり

アクティブ（能動的）なかわり



環境と地域社会

【期末課題】

「環境を守るとはどういうことか」について、事例を挙げながら論じなさい。

1. メインタイトルは「環境を守るとはどういうことか」にし、サブタイトルを各自必ずつけてください。
2. 必ず1つ以上（できれば2つ以上）の事例を（文献資料などから拾って）挙げ、そこから考察して、自分の結論へ持って行くという形をとってください。
3. 序論→本論→結論、という道筋を立て、適宜、節番号（1, 2, …、あるいは1-1, 1-2, 2-1, 2-2 など）と小見出しをつけてください。

枚数=A4 用紙 5 枚程度。

締切： **7/19(火)**

提出先： 講義中に集めます

【注意点】

何に注意して書くべきか？＝何が評価基準か？

1. 課題の趣旨に沿っているか。講義を踏まえているか（もちろん講義の内容をなぞればいいのではありません）
2. 記述の根拠がしっかりしているか（資料や文献等にちゃんと当たっているか。勝手な思い込みで書いていないか）。
3. オリジナリティ（独創性）があるか。
【注】僕がみなさんに大学で身につけてほしいと思っているのは、問題発見－問題解決能力、そして、“事実にもとづいた創造性 creativity”です。事実にもとづいて調査し、その中から、何が問題かを発見し、創造性をもった解決策を考えていく。期末レポートは、そのためのトレーニングのつもりです。これは、答えが一つではないし、「解法」も一つではないので、ちょっとしんどいのですが、そこが重要だと考えています。
4. 論理性があるか（言いたいことがよくわかるか）。文章が日本語としてまともか（誤字はないか、など）。
5. 単なる事例の紹介にならないこと。

その他の注意点

1. 必ず A4 用紙を使ってください。ホッチキスで左上を必ず綴じてください。表紙は付けないでください。
2. パソコン使用を推奨しますが、手書きでもかまいません。
3. 原則としてレポートは返却しませんので、必ず自分でコピーを取ってから提出してください。
4. 期末レポートについて、宮内からの具体的なコメント・評価を希望の人は、レポート 1 枚目の右肩にコメント希望と書いてください。その場合、提出後、あらかじめ電話してから宮内研究室（文学部 E202。電話 706-4150）に来てください。
5. レポート作成にあたっての質問はいつでも受け付けます。メールなら、miyauchi@reg.let.hokudai.ac.jp。電話は 011-706-4150。研究室に直接来てもかまいません。
6. 提出日の講義にどうしても出られない人は、提出日まで郵送、手渡し、その他で宮内まで送ってください。郵送の場合は、〒060-0810 北海道札幌市北区北 10 西 7 北海道大学文学部 宮内泰介 まで。

↓（ウラを見よ）

↓
そのための中間課題
↓
【中間課題】

裏面の期末課題へ向けて、アウトライン（レポートの構成）を作成せよ。

枚数＝A4用紙1～2枚

締切：**6/14(火)**

提出先：講義時に集めます

アウトラインの例（これはあくまで例です。棚田について書けという話ではまったくありません）：

環境を守るとはどういうことか

——棚田保全の活動から

1. はじめに——問題の所在

……（ここにおおまかな内容を文章で書いてください）……

2. 棚田保全活動の事例

2-1. ○○県○○町における棚田保全活動から

……（ここにおおまかな内容を文章で書いてください）……

2-2. △△県△△町における棚田保全活動から

3. 棚田保全活動の意味するところ

3-1. ボランティアな活動としての棚田保全活動の意義

3-2. 農村の現状と棚田保全活動の乖離

3-3. 望ましい棚田保全活動の方向

4. 結論

参考文献

中島峰広, 1999, 『日本の棚田——保全への取組み』古今書院

春山成子, 2001, 「棚田を機軸とした農村・都市交流の創造」『農村計画学会誌』20(3):186-190

環境と地域社会

【宿題】

（論文・レポートを書くためには、さまざまな情報を集める必要があります。そのためのいくつかの方法のうち、今回は雑誌論文を探し出すという作業の練習をしてみましょう）

「環境と地域社会」に関して“おもしろそうな”雑誌論文を探し出し、それを 600 字程度で要約してください。

提出期限：5 月 24 日（火）講義中に集めます

提出の形式：A4 用紙を使用して提出してください。パソコン利用を推奨しますが、手書きでもかまいません。

【手順】

1. 「雑誌記事検索」（<http://opac.ndl.go.jp>）で「環境と地域社会」に関して“おもしろそうな”雑誌論文（※）をいくつか探します。

（※）ここで言う「雑誌論文」は学術論文でなくてもかまいません。雑誌（一般雑誌や専門雑誌、学術雑誌）に載っている 2 ページ以上のレポート・報告・論文のたぐいであれば何でもかまいません。

2. その雑誌が北大にあるかどうかを北大図書館の OPAC（<http://www.lib.hokudai.ac.jp/opac/>）で検索し、北大に所蔵されていれば、その所蔵先（本館か北分館か、あるいは各学部図書館か、など）でその雑誌論文を閲覧して本当に“おもしろい”か確認。

・こうやって探しているうちに、その図書館で他のおもしろそうな論文を見つけるということもあります。

3. そうやって一つに絞った雑誌論文をコピーしてちゃんと読み、それを以下のような形式で 600 字程度でまとめてください。

「環境と地域社会」宿題

学生番号 0209876

山田太郎

論文タイトル：

宇根豊, 2002, 「田んぼの自然と田んぼの学校」 『環境情報科学』 31(1) : 54-57

要約：

.....

.....

(1)

国立国会図書館ホームページより転載



(2)

国立国会図書館ホームページより転載

(3)



アドレス http://opac.ndl.go.jp/Process

雑誌記事索引 一覧表示

検索条件: 論題名=(田んぼ and 自然)
結果件数: 2001年~ 5件 / 1996~2000年 4件

絞り込み/再検索 最初から検索

刊行年月順 正順 / 20件 再表示

2001年~ 1-5(5件)

1. グラビア グラフ21 農を楽しむ、自然と親しむー埼玉県志いたま市/豊沼田んぼ福祉農園
月刊福祉 86(2) [2003.2]
2. 田んぼの自然と田んぼの学校 (特集 自然共生とビオトープ) -- (市民活動によるビオトープ創造) / 宇根 豊
環境情報科学 31(1) [2002]
3. 田んぼでもきちんと教師ができるかー米づくりがなくなると、学びとくらし (特集/自然の回復と人間形成) / 鈴木 廣智
教育 51(10) (通号 669) [2001.10]
4. 環境農園 ヲガカが泳ぎ、タニシがウヨウヨ…失われた田んぼの生態系が復活する! 土を耕さない“自然耕”の稲作に学ぶ
生き方 / 岩澤 信夫; 中村 麗子; 佐藤 康男 他
財界 49(12) (通号 1237) [2001.6.12]
5. 農業・農村の多面的機能を活用した環境教育 (小特集 農業・農村が有する教育・文化面での多面的機能) / 岩村 和子
農業土木学会誌 69(2) (通号 591) [2001.2]

1996~2000年 1-4(4件)

1. 田んぼの虫たち、自然のいきもの (特集 農村生態系と保全技術) -- (特集1 農村生態系(水田を中心として)) / 宇根 豊
農村と環境 1(6) [2000.04]
2. 学校農園誌開誌-5-ホリ製のトンボ池、バケツ田んぼ、袋の雉 土がない園庭でも自然がいっぱいー東京・新宿区立戸
塚第三幼稚園のビオトープ / 近藤 泉
食農教育 (通号 6) [1999.11]
3. 田んぼの虫たちは、自然の生きもの (特大号・田んぼのエコロジー) / 宇根 豊
遠伝 53(4) [1999.04]
4. 農村の自然環境と生物多様性 (特大号・田んぼのエコロジー) / 中村 俊彦

制限資料

国立国会図書館ホームページより転載

これを調べてみよう!

この論文は、『環境情報科学』という雑誌の第31巻第1号にある、ということがわかった。それでは、この『環境情報科学』第31巻第1号が北大にあるかどうかを調べてみよう。



(4)

アフィリエイト http://www.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/opac/opac-query

Online Catalog

Hokkaido University Library

English Version | 新着図書案内 | 雑誌最新号案内 | 電子ジャーナル | 学術雑誌目次連絡データベース | 北方資料データベース

学内OPAC NACSIS Webcat

検索対象 雑誌 和と洋 検索範囲 (全学部)

キーワード検索 環境情報科学

表示順 図書 書名 一度に表示する件数 20

検索

はじめから検索しなおす | 検索条件を詳細に指定する | 検索語の入れかた

・論文タイトルでは検索ができません(雑誌タイトルで探してください)

学内で 1 件 見つかりました【図書 0 件: 雑誌 1 件】→ 書誌と所蔵を一緒に表示する【簡略 | 詳細】 [この画面の見方](#)

Page: 1 [【結果をメールで送る】](#)

1. 【雑誌】[環境情報科学 / 環境情報科学センター](#) - 1巻1号 (昭47.5) - 東京 <30010082>

Page: 1 [【結果をメールで送る】](#) 制限資料

北大にあった！

北海道大学付属図書館ホームページより転載

↓ では、北大にどこにあるのか？

(5)

アフィリエイト http://www.lib.hokudai.ac.jp/cgi-bin/opac/serial-query?smode=1&zcde=30010082&key=B1052

English Version | 新着図書案内 | 雑誌最新号案内 | 電子ジャーナル | 学術雑誌目次連絡データベース | 北方資料データベース

カンキョウジョウネウカガク

環境情報科学 / 環境情報科学センター

巻次年月次 1巻1号 (昭47.5)-

出版者 東京

別誌名 OH Environmental information science

著者標目 [環境情報科学センター<カンキョウジョウネウカガクセンター>](#)

コード類 ISSN=03896633 書誌ID=30010082 NCID=AN00046279

[【新画面】](#) [はじめから検索しなおす](#) [この画面の見方](#)

[【受入状況】](#)

所蔵番号	年次	所在	請求記号	コメント
12Q-4J.13-29	1983-2000	工・交通システム計画学		
10-16	1981-1987	農・土質改善学		
18-31.32G1	1989-2003	農・農地環境情報学		
1-3.5-26.27G-4J.28Q-4J.29.30G-30.31G-30.32G.4J	1972-2003	地球環境・図書室		

北海道大学付属図書館ホームページより転載

制限資料

というわけで、探したい論文のある雑誌『環境情報科学』の31(1)は、地球環境科学研究科の図書室にあることがわかったので、さっそく行ってみよう、ということになります。行ってみて、論文を実際に見て、これだ、と思ったら、コピーをしましょう。

環境と地域社会

海と人と地域社会

学部	
学生番号	
氏名	

- (1) ビデオ「ふるさとの伝承 昆布の森～北海道南茅部町」を見て、“海と人と地域社会”について自分なりに4つのキーワード（それぞれ10～20字程度）を書いてください。

↓

- (2) グループ内で報告しあい、“海と人と地域社会”について何が大事な点なのかを話し合ってください。
・たとえば、海を守ることと地域社会のしくみはどうからんでいるか、などなど。

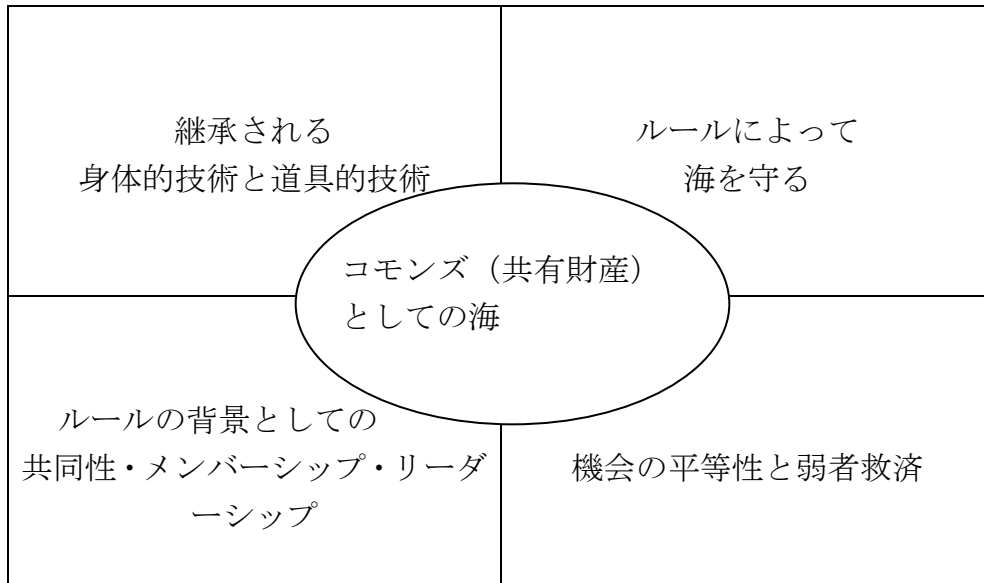
↓

- (3) 各自、もう一度自分なりの、しかし説得力のある4つのキーワードを書いてください。

【メモ】

海と人と地域社会

ビデオ「ふるさとの伝承 昆布の森～北海道南茅部町」を見て、“海と人と地域社会”について自分なりに4つのキーワード（それぞれ10～20字程度）を書いてください。



コモンズ＝地域の人々が共同でかかわっている環境

環境と地域社会



国立国会図書館ホームページより転載 制限資料

それぞれの宿題を見せ合って、以下のことを話しあってください。

(1) 各自が文献を探し出してきた経緯

- ・ どういう検索のしかたをしたか（どういふ試行錯誤をしたか）
- ・ どういふ経緯をたどってその論文に行きついたか
- ・ その経験から、文献を探す際に大事な点はどんな点か など

(2) 今後レポートを書く際の情報収集について

- ・ どういふ点に気をつけなければならないか
- ・ どういふノウハウが考えられるか など

水俣病と人と社会

学部	
学生番号	
氏名	

- (1) ビデオ「村野タマノの証言～水俣の17年」を見て、なぜ水俣病は起こったのか、なぜ水俣病患者は放置されてきたのか、なぜ水俣病患者は単なる健康被害以上の苦しみを背負うことになったのか、などについて考え、自分なりの4つのキーワード（それぞれ10～20字程度）を書いてください。

【ビデオを見ながらのメモ】



環境と地域社会

ビデオ「海は誰のものか？」から——解決法を KJ 法で探る

この問題をどう解決すればよいか、KJ 法を使って探ってみよう。

(1) 思いつくキーワードを、各自シールにどんどん書く。

「こうやれば解決できる」、「解決の中で、この点は注意しなければならない」、「誰が解決のプロセスに加わるべきか」、などなどの点について思いつくまま何でも書く。

(2) KJ 法で解決策をさぐる

まず、それぞれのシールを説明しよう。

そして、議論する。「それって解決になる？」「それだったらあれも大事じゃない？」「いや、それは違う」、などなど、議論しながら、シールを加えたり、削除したりする。

シールを使い、言葉を書き加えながら、解決のプロセスを図にしていく。

学生番号				
氏名				

環境と地域社会

中間課題についてグループディスカッション

中間課題（アウトライン）について、各グループで以下のポイントに注意しながら、お互いに指摘しあいましょう。各自のレポートのいいところを生かす形でアドバイスしあいましょう。

(1) テーマが適切であるか

問題設定が適切か / おもしろいテーマか / オリジナリティがあるか / 「環境を守るとは
どういうことか」というメイン・テーマがちゃんと掘り下げられるテーマになっているか / この
講義の趣旨に沿っているか / などなど

(2) 構成（アウトライン）はよいか

この構成で、何が言いたいかわかるか / 序論、本論、結論、という形になっているか / 序論
部分はこれでよいか / 本論部分の構成はこれでよいか / 本論部分で、考察をちゃんと行う構
成になっているか / 事例紹介のみの構成になっていないか / 全体として趣旨は明解か /
何を論じようとしているのかがはっきりしているか / 論じたいテーマがちゃんと浮かび上がるよ
うな構成になっているか / 論理的な構成になっているか / などなど

(3) タイトルは適切か

タイトルは内容をよく表しているか

自分の中間課題について指摘されたこと、また、議論の中から考えたことをメモしておこう

レポート作成のために



1. 雑誌論文→

- 国会図書館OPAC-NDL (<http://opac.ndl.go.jp/>) 「雑誌記事索引検索」をまず検索。

読みたい論文・記事があったら、その雑誌が北大にあるか検索し、なければ、文学部図書室を通じて他大学からコピーを送ってもらう（実費がかかる）。

2. 図書資料→

- 北大図書館 <http://www.lib.hokudai.ac.jp/opac/>

- Webcat（他大学での所蔵） <http://webcat.nii.ac.jp/>

→北大にないものは、北分館を通じて他大学から借りる。

- WebcatPlus <http://webcatplus.nii.ac.jp/>

Webcat の進化版。「連想検索」してくれるので、広い範囲から探せる。

本の探し方・裏ワザ

- インターネット書店 bk1 (<http://www.bk1.co.jp/>) で探すと、本の内容などからも検索できる。

- WebcatPlus で、文章や複数のキーワードを入れてみて検索すると、関連する本がたくさん検索され、さらに柔軟に絞り込んでいける。

→こうして探した本を、再び北大図書館で検索。なければ北分館を通じて他大学から借りる。

3. 新聞記事→

- 北海道新聞データベース

北大内のコンピュータから、<http://www.lib.hokudai.ac.jp/gakunai/doshindb.htm> へアクセスしてください。札幌で読む北海道新聞には載っていない地方の記事まで、全部収録されています。

- 朝日新聞データベース

附属図書館4階参考閲覧室の端末から、オンラインの朝日新聞データベースが利用できます。地方版もかなりの程度収録されています。

- 附属図書館本館4Fに、朝日新聞（1985～）・毎日新聞（1991～）・日本経済新聞（1991～）のCD-ROMがあります。また、朝日新聞の戦後50年分の記事見出しデータベースCD-ROM（CD-ASAX 50yrs.）もあります。

- 沖縄タイムス記事データベース（無料） <http://www.okinawatimes.co.jp/com/dbinfo.html>

（共同通信配信の全国ニュースや他の他府県の記事も結構あって十分使える）

- 朝日、読売、日経、北海道新聞などの縮刷版

（いずれも、かなり古くからのものが附属図書館本館2Fにあります）

4. 官公庁資料

- 各官庁の Web で探す

- 国の統計は、総務省の統計データ・ポータルサイト (<http://portal.stat.go.jp/>) のデータベースを利用する（←たいへん便利！）

- 北大で探す（残念ながらあまり充実していない）

- ・ Web にも北大になれば、政府刊行物センター（JR 札幌駅北口）や道立図書館（JR 大麻駅）（<http://www.library.pref.hokkaido.jp/>）、北海道庁文書館（赤レンガ庁舎 1F）、札幌市立中央図書館（<http://www.city.sapporo.jp/tosyokan/>）などで探す。

5. 英語文献→

- ・ 英語の雑誌記事・学术论文→Ingenta（<http://www.ingenta.com>）～世界中の雑誌記事・論文が検索できる。
北大が契約している雑誌については、ただでダウンロードできる。

北大の図書館の使い方については、「図書館利用案内」（http://www.lib.hokudai.ac.jp/j_guide/lib0_j.html）をご覧ください。また、

宮内泰介, 2004, 『自分で調べる技術』（岩波アクティブ新書）岩波書店

には、文献検索・資料収集の方法が詳しく書いてあり、さらに、フィールドワークの方法やまとめ方も書かれています。宮内のホームページにも、「市民のための情報収集法」<http://reg.let.hokudai.ac.jp/miyauchi/joho.html> がありますので、参考にしてください。

論文レポートの書き方については、以下の2冊がたいへん参考になります。

木下是雄, 1994, 『レポートの組み立て方』（ちくま学芸文庫）筑摩書房

浜田麻里他, 1997, 『大学生と留学生のための論文ワークブック』くろしお出版

環境と地域社会
中間レポートについて

【採点基準】左右とも5点満点

【左の点数】問題設定の適切さ（何を論じようとしているのかがはっきりしていきりしており、そのテーマが適切である）とオリジナリティ	【右の点数】構成と内容～論じたいテーマがちゃんと浮かび上がるような構成になっているか。論理的な構成になっているか。
---	---

【講評】＝期末レポートに向けて以下の点に気をつけてください。

- ・全体として何が言いたいのか、はっきりさせること。
 - ・単なる事例の紹介に終わらないこと
 - ・その事例から何を論じたいかをはっきりさせること。
 - ・事例からの考察をちゃんと加える。
 - ・問題の羅列はダメ
 - ・こういう環境問題があります、こういう環境問題があります、という“環境問題紹介”ではダメ。その問題から何を自分として考えるか、が大事。
 - ・「はじめに」（序論）で、自分が何を考えたいのかをはっきり示す。
 - ・「問題の所在」は事例で取り上げる環境問題の背景ではなく、その事例を通して自分が何を問いたいのが大切。
 - ・意見の裏には“根拠”が要る。
 - ・事例から説得力のある考察・結論を。
 - ・いろいろ事例を挙げて最後に「大事なのは一人一人の心がけである」といったあたりまえの結論に終わっては意味がない。そんなあたりまえの結論なら、事例も考察も要らない。
 - ・「環境を守るとはどういうことか」というメイン・テーマをちゃんと掘り下げること。
 - ・レポートはプレゼンである。読み手を考えて。
- ・「結論」への誤解
 - ・議論は本論の中でやる。
 - ・「結論」で新たな議論をしない。「結論」はただ短くまとめるだけ。
- ・文献・資料を1つに頼らない。
 - ・インターネット利用は注意深く。
- ・「です・ます」体はダメ

アウトラインの一つの例

1. はじめに

こういうことを考えたい。そこでこういう事例を取り上げる。その事例から、こういうこと、こういうことを論じる。

2. 本論 1

2-1. 事例 1

こういうことを考えるためにまずこの事例を考える。この事例は、こうこうこういう事例である。

2-2. 事例 1 からの考察

この事例で注目すべきポイントはこういうことで、そこからこういうことを私は考えた。

3. 本論 2

3-1. 事例 2

こういうことを考えるためにまずこの事例を考える。この事例は、こうこうこういう事例である。

3-2. 事例 2 からの考察

この事例で注目すべきポイントはこういうことで、そこからこういうことを私は考えた。

4. 本論 3

4-1. 2つの事例からの考察 1

2つの事例から、こういうポイントが浮かび上がってくる。これについて少し深めるとこんなことになる。

4-2. 2つの事例からの考察 2

2つの事例から、別のこういうポイントも浮かび上がってくる。これについて少し深めるとこんなことになる。

4. 結論

これまでのべてきたことをまとめるとこんなことになる。

(「結論」部で新たな議論をしない！ ただまとめるだけ)

環境と地域社会

環境を守るための社会的しくみを考える（1）

学部	
学生番号	
氏名	

新聞を読み、この問題の解決方法をグループで考えなさい。

- ・この問題を難しくしている要因、問題解決へ向けて考えなければならないポイントなどを併せて考えてください。

【メモ】

↓

ビデオを見て、先の新聞記事の問題を含めて、環境を守るための社会的しくみにはどんなものがありうるか、グループで考えなさい。

【メモ】

環境と地域社会

環境を守るための社会的しくみを考える（2）

イギリスの景観保全および霞ヶ浦のアサザ・プロジェクトから

(1) イギリスの景観保全および「アサザ・プロジェクト」についてのビデオには、“環境を守るための社会的しくみ”についてたくさんのヒントが隠されています。このビデオを見て、“環境を守るための社会的しくみ”を作っていくための大事なポイントを箇条書きで書いてください。

学部	
学生番号	
氏名	

--

↓

(2) グループ内で報告しあい、“環境を守るための社会的しくみ”を作っていくための大事なポイントは何かを話し合い、グループで4つのキーワードを出してください。

【メモ】

学部	
学生番号	
氏名	

？ よい環境保全活動 ？

配付した新聞記事のうち、どれが「最もよい環境保全活動（あるいは環境保全の動き）」か？ 「環境を保全するとはどういうことか」を考えながら、「最もよい環境保全活動（あるいは環境保全の動き）」トップ3を選びなさい。

自分の意見

1	
2	
3	

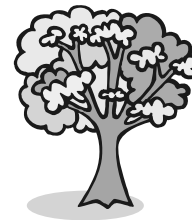
→

グループの意見

1	
2	
3	

「どれがいい環境保全か」を考えるときに基準としたこと、考慮したことは何か？ また、このことを議論する中で出てきたポイントはどういうものか？――

【メモ】



環境と地域社会 夏休みに読んでみよう

鬼頭秀一, 1996, 『自然保護思想を問い直す——環境倫理とネットワーク』（ちくま新書）筑摩書房

「自然保護」と一口にいっても、いろいろな立場がある。いったい自然とは何なのか？ 自然保護とは何なのか？ 豊富な事例をもとに、環境倫理学の立場から、人間と自然との関係について深く考察する。

鳥越皓之, 2004, 『環境社会学——生活者の立場から考える』東京大学出版会

環境問題を、生活する人の立場から考えるとどうなるか。環境社会学の考え方をわかりやすく説明。

鷺谷いづみ『自然再生—持続可能な生態系のために』（中公新書）中央公論社

保全のための生態学（保全生態学）の最前線を走る鷺谷いづみさんが、自然再生のための考え方を、事例をとりまぜながらわかりやすく述べた本。同じ著者たちによる、鷺谷いづみ・飯島博編, 1999, 『よみがえれアサザ咲く水辺——霞ヶ浦からの挑戦』（文一総合出版）は、死に瀕した霞ヶ浦を救おうと市民が立ち上がったさまを描く。

井上真・宮内泰介編, 2001, 『コモンズの社会学』（シリーズ環境社会学2）新曜社

日本、インドネシア、ソロモン諸島各地の事例から、住民自身が共同で自然環境とかかわり、管理する様子を描くと同時に、その課題を考える。「シリーズ環境社会学」の以下の他の巻もおすすめ。

鳥越 皓之編 『環境ボランティア・NPOの社会学』新曜社

片桐 新自編 『歴史的環境の社会学』新曜社

梶潟 俊子他編 『食・農・からだの社会学』新曜社

桜井 厚他編 『差別と環境問題の社会学』新曜社

古川 彰他編 『観光と環境の社会学』新曜社

千賀裕太郎, 1995, 『よみがえれ水辺・里山・田園』（岩波ブックレット）岩波書店

水辺の自然、農村の環境をどうやって再生させるか、日本とドイツの事例を紹介しながら考える。そして地域の住民、行政、学校、企業が手を結んで環境を改善していこうとする“グラウンドワーク運動”を提唱する。

原田正純, 1985, 『水俣病は終わっていない』（岩波新書）岩波書店

水俣病に長くかかわった医師による、水俣病報告。同著者による『水俣病』（1972、岩波新書）、『水俣病にまなぶ旅』（1985、日本評論社）もおすすめ。

武内和彦・鷺谷いづみ・恒川篤史編, 2001, 『里山の環境学』東京大学出版会

保全生態学の視点から、里山・里地という二次的自然がどういう意義をもっているのか、そしてそれを守るための方策は何か、をさぐる。

小野佐和子, 1997, 『こんな公園がほしい——住民がつくる公共空間』築地書館

公園を、行政任せでなく、自分たちで計画する、自分たちで運営する、という各地の事例を、わかりやすく描いた。その面白さと難しさが描かれている。



授業とレポート作成をふりかえって

各グループで、作成してきたレポートを紹介しあいながら、以下の点について話し合ってください。

- (1) 自分のレポートについて紹介してください。その際、この授業全体で議論してきたこととレポートがどう関係しているかを中心に話してください。
- (2) また、レポート作成にあたって苦労した点なども紹介してください。
- (2) さらに、この講義で議論してきたことをさらに発展させるためには、今後どういう勉強が各自必要か、意見を出し合ってください。

議論の中から考えたことをメモしておこう

環境と地域社会
講義全体をふりかえって

環境の問題を
人と人の関係（社会関係）
からとらえ直す



キーワード

自然とは何か	紛争
人間と自然との相 相互作用	新しいルール作り 誰が？
自然環境を守ると は何か？	NGO／NPO
ルール	新しい担い手
地域の共同性	新しい公共性